

競 技 注 意 事 項

本競技会は 2021 年日本陸上競技連盟競技規則と本大会申し合わせ事項により行う。
なお、フィールド競技用シューズについては、WA 規則第 143 条(TR5-5) の適用を除外する。

1. 競技場への入場について

- (1) 入場は出場種目開始の 2 時間前からとし、1 F 正面玄関のみとする。
- (2) 退場はマラソングートを使用すること。再入場はマラソングートからのみとし、入場は当日配布する**入場許可証**を競技役員に提示すること。
- (3) 本大会は無観客競技会として開催する。正面 2 F メインスタンド入口は開放しない。

※高体連 WEB ページの『**■2021 年度 競技会の運営方法について・競技会の選手出場方法について**
《ヤンマーフィールド長居用》』を必ず読んでおくこと。

2. 練習について

- (1) 練習はバックスタンド後方（東側）の練習走路を使用すること。走る方向は北から南の一方通行とし、逆走は禁止する。個人のハードルヤラダーなどは持ち込まないこと。また、ゴムチューブなどを使ったスピード練習は禁止する。
- (2) バックスタンド後方（東側）の練習走路でのハードル練習は禁止し、競技開始前のハードル設置後に行うこと。
- (3) 競技開始前のトラック練習は、**競技開始時刻の 20 分前まで**とする。

[ホームストレート・バックストレート]

○1・2 レーン=長距離周回練習 ○ジョグ=レーン外

○3～5 レーン=コーナーからのスプリント練習 ○6～9 レーン=直線からのスプリント練習

※**順番待ち等は、密を避けるように距離を保って行うこと。**

※**第 1 日目（5 月 28 日）はやり投の練習開始時にはトラックの第 2 コーナーに規制を設ける。**

安全確保のため、必ず競技役員の指示に従うこと。

- (4) 競技場・公園内でのリレー練習は一切認めない。また公園内でのスピードを出しての練習も禁止。
- (5) 競技場および公園内はメディシンボールなど、物を投げる練習は禁止する。
- (6) 走高跳、走幅跳、三段跳は準備が整った後、競技役員の指示で練習してもよい。
- (7) 競技場内での練習は、競技役員の指示に従うこと。

3. 招集について **※招集所へのスマートフォン・携帯電話等の通信機器の持ち込みは禁止する**

- (1) 競技開始 2 時間前～1 時間前（棒高跳のみ 1 時間 30 分前）までに「体調管理チェックシート」（用紙は高体連 WEB ページにあるもの最新のものをダウンロードして利用する）を、屋内練習場内に設ける競技者係に提出し、アスリートビブスの確認（スパイクなど含む）を受けることで、一次招集完了とする。

但し、競技開始の 2 時間前が開門時刻より早いときは、開門時刻以降受け付ける。

- (2) 二次招集は現地招集とし、現地招集時間はトラック競技 15 分前開始 10 分前完了、フィールド競技 50 分前開始 40 分前完了とする。（棒高跳のみ 70 分前開始 60 分前完了とする。）
- (3) 一次招集・二次招集に遅れた競技者は、欠場するものとして処理する。
- (4) やむを得ず欠場する場合は、欠場届をできるだけ速やかに競技者係へ提出する。
（用紙は高体連 WEB ページにあるものをダウンロードして利用する）

- (5) 点呼の代理は認めない。但し、多種目を兼ねて出場する競技者は、「体調管理チェックシート」にすべての種目を記載し、その日の最初の種目の一次招集を完了することで、種目の一次招集も兼ねることとする。但し、同時時間帯に競技が行われる可能性がある場合は、「多種目同時出場届」に必要事項を記入し、競技開始の60分前までに競技者係に提出すること
(用紙は高体連 WEB ページにあるものをダウンロードして利用する)

4. リレーのオーダー用紙提出時刻について

開門時刻から組により設定されている競技開始時刻の90分前までに競技者係へ提出すること。
また、顧問のサインが必要なので、事前によく打合せを行うこと。なお、今回は代筆を認める。
(用紙は高体連 WEB ページにあるものをダウンロードして利用する)

競技開始60分前にはスタートリストを高体連 WEB ページに掲出するので、オーダーの確認を必ず行うこと。

5. 番組編成および競技の抽選について

- (1) トラック競技のレーンおよびフィールド競技の試技順は、大阪高体連 WEB ページのスタートリスト通りとする。
- (2) トラック競技および跳躍競技の決勝については、規則に則り組合せ、レーン順・試技順決定し、WEB 上または電光掲示板で発表する。
- (3) トラック競技において、次のラウンドへの進出者を決める時、その最下位で同タイムが出た場合、次の方法で決定する。
 - ①レーンに余裕がある場合、同タイム者は次のラウンド進める。
 - ②レーンに余裕がない場合、写真を拡大し判定する。
 - ③それでも判定できない場合は、抽選を行う。

6. 競技について

- (1) 当該種目出場者以外は競技エリアに立ち入ることはできない。
- (2) アスリートビブスは必ず胸部と背部につけること。ただし、跳躍競技は胸部または背部だけでよい。
男子 5000m・5000mW・女子 3000m・5000mW は別ナンバーカードを使用する。
トラック競技では、腰ナンバーカードをパンツの右側やや後方に付けること。なお、4×400m の第2・第3走者は、次走者の待機順を明確にするため、右側に腰ナンバーカードをつけること。
なお、腰ナンバーカードは主催者が用意する。
- (3) 靴底の厚さは20mm以下(ただし800m以上のトラック種目と三段跳は25mm)とし、一次招集時にスパイクチェックと同様にシューズ計測を行う。スパイクのピンは、本数は11本以内とし、9mm以下の全天候競技場用のものを使用すること。ただし、走高跳・やり投については12mm以下とする。また、スパイクの直径は先端近く(少なくとも長さの半分)で、4mm四方の定規に適合するように作られていなければならない。

【靴底の厚さに関する規定(TR5.13.3)表】

種目	靴底最大の厚さ TR5.5、TR5.13.3	要件・備考
フィールド競技(除:三段跳)	20mm	投てき種目と三段跳を除く跳躍種目に適用する。 全フィールド種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
三段跳	25mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。

トラック種目 (ハードル種目を含み、800m 未満の種目)	20mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。
トラック種目 (障害物競走を含み、800m 以上の種目)	25mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。 (競技場内で行う競歩競技の靴底の最大の厚さは 40mm)
競技場内で行う競歩	40mm	
道路競技(競走・競歩)	40mm	

※ただし、フィールド競技用シューズについては、上記の規定適用を除外する。

- (4) 短距離競走は、フィニッシュラインを過ぎてもレーンに沿って走ること。
- (5) 5000m・3000m・20名を超える競歩種目はグループスタートとする。
- (6) ラスト1周で5000mは18分30秒、3000mは13分30秒、3000mSCは12分を超える競技者は審判長により競技を打ち切る。また競歩種目ではラスト1周で男子28分・女子30分を超える競技者は競歩主任が競技を打ち切る。
- (7) 競技エリア内に通信機器（スマートフォン・携帯電話等）やビデオ撮影機器（タブレット等）を持ち込んで서는ならない。また、競技エリア内で助力を与えたり受けたりしている競技者は失格の対象となる。また、フィールド競技中に競技者が、それ以前の試技映像を観るため録画再生機器などをスタンドからの手渡しや吊り下げる等により競技エリア内に持ち込むことは認めない。
- (8) 集団での声援（応援）自粛すること。また不正な助言行動は競技者の失格の対象となるので厳禁。
- (9) 投てき競技と棒高跳の滑り止めは、主催者で準備しないので、個人で持参すること。
- (10) フィールド競技の試技時間は次のとおりである。

【単独種目】

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上※	1分	1分	1分
2～3人	1分30秒	2分	1分
1人	3分	5分	—
連続試技※※	2分	3分	2分

※4人以上または各競技者の最初の競技

※※走高跳・棒高跳では、残っている競技者が二人以上で、同一の高さの時のみ適用する。

【混成競技】

残っている競技者数	走高跳	その他
4人以上※	1分	1分
2～3人	1分30秒	1分
1人または連続試技	2分	2分

※4人以上または各競技者の最初の競技

※※走高跳では、残っている競技者が二人以上で、同一の高さの時のみ適用する。

- (11) 跳躍競技の予選通過記録は次の通りとする。

種目	走高跳	走幅跳	三段跳	三段跳の踏切板の砂場からの距離
男子	1 m 8 8	6 m 6 5	1 3 m 5 0	男子・・・1 2 m
女子	1 m 5 6	5 m 1 5		女子・・・1 0 m

また、予選において下記の記録以下は計測しない。但し、各競技者の有効試技の1回目は計測する。
女子三段跳は決勝で計測ラインを設ける。

種目	走幅跳	三段跳
男子	5m90	12m70
女子	4m75	10m30

< バーのあげ方 >

男子走高跳	予選	1m70 1m85(練) 1m75 80 85 88
	決勝	1m82(練) 1m85 88 91 以後3cmずつ上げる
女子走高跳	予選	1m40 1m53(練) 1m45 50 53 56
	決勝	1m50(練) 1m53 56 59 以後3cmずつ上げる
男子棒高跳	決勝	練習は下記の通り 3m60 80 4m00 4m10 以後4m60までは10cmずつ上げる 4m60以後は5cmずつ上げる
女子棒高跳	決勝	練習は下記の通り 2m50 70 2m90 3m00 以後3m60までは10cmずつ上げる 3m60以後は5cmずつ上げる

決勝で最後の一人となり、優勝者が決まるまでは、上記のバーの上げ方とする。

同記録による1位決定と近畿大会出場権を決定するバーの上げ下げは、走高跳2cm、棒高跳5cmとする。

男子棒高跳の練習は、3m50・4m00・4m50を設定する。

女子棒高跳の練習は、2m40・3m00・3m30・3m60を設定する。

(12) 混成競技について

混成競技の走高跳開始の高さは、現地にて決定し、開始の高さの違う2ピットに分けて行う。

競技者は第1種目の招集所での点呼の際、希望の高さを申請すること。

< 混成競技のバーのあげ方 >

男子走高跳	1m75 までは5cm 以後3cm ずつ上げる
女子走高跳	1m45 までは5cm 以後3cm ずつ上げる

(13) 混成競技の最終種目では、それまでの成績順位を表す別ナンバーカードを胸につけて競技を行う。

背は競技者個人のアスリートビブスで、腰はレーンナンバーとする。

(14) 投てき種目について

投てき競技の予選通過記録は次の通りとする。

種目	砲丸投	円盤投	やり投
男子	12m50	35m00	48m00
女子	10m50	30m00	

また、予選（男女ハンマー投・女子やり投は決勝）において、下記の記録以下の者はベスト記録のみ計測する。

種目	砲丸投	円盤投	ハンマー投	やり投
男子	10m80	30m00	37m00	45m00
女子	9m00	25m00	28m00	28m00

(15) 予選が実施されるフィールド競技において、予選通過標準記録を超えた競技者が12名に満たなかった場合は、上位12名まで決勝に進出させる。なお、12番目に同じ記録の競技者がいた場合は、下記の方法で決定する。その結果、同成績の場合は、同成績の競技者は決勝に進める。

(ア) 走高跳の場合

(a) 同記録になった高さで、試技数の最も少なかった競技者。それでも決まらない時は、下記(b)を適用する。

(b) 同記録を生じた高さまでのすべての試技数のうち、無効試技数が最も少なかった競技者。上記(b)でも決まらない時は、複数名が決勝に進出できる。

(イ) その他フィールド競技の場合 同記録となった競技者の2番目の記録で順位を決める。それでも決められない時は3番目の記録で決める。

7. 競技用具について

やり及びポール以外の競技用具は、競技場備え付けのものを使用する。やりの検査受付は、競技開始時刻の90分前より20分間行う。正面玄関より入場し、器具庫へ持参すること。

投てき競技と棒高跳の滑り止めは、主催者で準備しないので、個人で持参すること。

8. 抗議について

抗議は総務員に口頭で申告し、総務員が審判長に取りつぐ。

9. 表彰について

(1) 各種目で8位までの入賞者に賞状を授与する。但し、種目毎の表彰式は行わない。表彰係まで受け取りに来ること。但し、近畿インターハイの出場権を得た選手(チーム)は近畿インターハイ申し込み完了後に賞状を近畿大会受付より渡す。

(2) 総合の部は次のように表彰する。

総合優勝校に賞状および優勝旗(盾)	2位校から6位校まで賞状
トラック優勝校に賞状及び優勝盾	2位校から6位校まで賞状
フィールド優勝校に賞状及び優勝盾	2位校から6位校まで賞状

(3) 大阪高体連陸上競技専門部より、男女優秀競技者に最優秀競技者賞が贈られる。

(4) 男女総合優勝校の顧問を表彰する。

(5) 学校対抗得点は1位8点、2位7点・・・8位1点とする。

10. 式典について

(1) 返還式・表彰式・種目毎の表彰式は実施しない。

(2) 開始式は、アナウンスと電光掲示(映像)により簡素化して行う。

(3) 賞状は顧問の先生が正面エントランスまで取りに来ること。(生徒は取りに来ない)

11. 近畿インターハイについて

(1) 近畿インターハイへの出場者は各種目6位までに入賞した者とする。ただし、男女走高跳および男子棒高跳は6位までに入賞した6名とする。男子5000mW・八種競技・女子5000mW・女子三段跳・女子ハンマー投・七種競技は4位までに入賞した者とする。女子棒高跳は4位までに入賞した4名とする。

(2) 近畿インターハイの出場資格を獲得した選手は必ず正面玄関にて申し込み手続きを行うこと。

- (3) リレー種目の出場資格を獲得した学校は、近畿インターハイ受付でリレーオーダー用紙を受け取り、オーダーを記入後、顧問のサインを得て申し込み手続きを行うこと。

1 2. 競技場の使用について

- (1) 競技者・付添等の関係者は指定された出入口から入退場すること。
(2) 声を出しての応援は禁止する。
(3) 横断幕、ノボリの設置はすべて禁止する。
(4) 以下の箇所にはテントを設置しないこと。
①南北の芝スタンド（土盛スタンド）の中段より下
②メインスタンド中段通路より下側およびメインスタンド屋根の下
③メインスタンド記者席からフィニッシュ側の4ブロックエリア
なお、テントを設置する際に、ロープ等が通路にかからないようにすること。
(5) 使用した場所は各学校で責任を持って清掃し、ゴミ等は必ず持ち帰ること。
(6) トラック、フィールドおよび練習走路以外でのスパイクの着用は禁止する。
(7) 更衣室は10名以内で更衣のみの利用とし、マスクを着用して会話はしないこと。使用時間は1人5分以内とする。また、清潔に使用し私物を置かないこと。

1 3. その他

- (1) 競技場には、アルコール消毒液の準備はしますが、「マスク着用・うがい・手洗い」など感染防止対策を徹底すること。
(2) 顧問の受付がない学校の競技者の出場は認めない。
(3) プログラムは、配布しないので各校で印刷準備すること。
(4) 競技中に起こった怪我は、本部の医務室で応急処置のみを行う。
(5) 記録は、電光掲示板およびWEBページで確認すること。（記録ボードは設置しない）
(6) 全ての競技者は、競技終了後に手洗い・消毒を行ってから退場すること。
(7) 盗難の発生や忘れ物に注意し、荷物等の管理は各校で十分注意すること。
(8) プログラム記載の個人情報（氏名、学校名など）および大会結果は、新聞および大阪陸上競技協会のWEBサイト（大阪高体連陸上競技専門部）に記載されますが、本大会関係以外には一切使用しません。
(9) 外国人留学生が大会記録を更新した場合の取り扱いは、大会記録（国際）として認定する。

＝ 周 知 板 ＝

第74回全国高等学校陸上競技対校選手権大会近畿地区予選会について

期 日：6月17日（木）～20日（日）

場 所：兵庫県神戸市・神戸総合運動公園陸上競技場（ユニバー記念競技場）

総監督：船津哲史（大塚）